

# 協会だより

小笠教育研究協会事務局  
第2号  
令和3年6月22日



## 令和3年度小笠教育研究協会 各研究部活動方針・一斉研究報告会一次案等

今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、小笠の教職員が会場校に集まり一斉研究報告会の公開授業を参観することを行いません。また、公開授業を行うかどうかについても部ごとに異なりますのでご確認ください。公開授業を行う場合、基準日は11月10日(水)の午後とし、授業参観者は、研究推進委員、主任研究員、助言者、所属校職員などの最小限の人数に限らせていただきます。しかし、動画配信などにより公開授業や事後研修会の様子を見たり協議に参加したりできないかについて、小笠教育研究協会ではリモート開催の方法の可能性も検討しています。詳細につきましては後日お知らせいたします。

お便りの終わりに、今年度の教育講演会について記させていただきます。

研究部名とテーマ	活動方針や柱	一斉研究報告会の一次案等
<b>国語教育</b>  豊かな言葉で確かに伝え合う国語科教育 ～指導と評価の一体化を通して～	<ul style="list-style-type: none"><li>・小学校の実践研究を受けて中学校の実践につなげていく。</li><li>・国語部報等で研究によって得られたことを小笠の国語科に発信する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・研究部員による参観授業は行うが、11月に合わせた公開授業は行わない。</li></ul>
<b>社会科教育</b>  社会的事象に主体的に向き合い、よりよい社会のあり方を追究し創り上げていこうとする子どもの育成 [小] 社会的事象を徹底的に追究し、自らと社会とのつながりを様々な見方からとらえ、よりよい社会のあり方を考えることができる力を育てる [中] 広い視野に立って社会的事象を追究し、社会の一員としてよりよい社会の実現に向け、行動することができる力を育てる	『新学習指導要領を視野に入れた小笠の社会科の授業づくり』 (小学校) <ul style="list-style-type: none"><li>・地域教材の発掘・授業化</li><li>・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善</li></ul> ※「思考ツール」を活用した授業改善(H29～) (中学校) <ul style="list-style-type: none"><li>・小笠スタンダード版の検証</li><li>・指導案の作成</li></ul>	[小学校] <ul style="list-style-type: none"><li>・授業公開</li></ul> 授業者：佐藤大和 教諭 (河城小)
<b>数学教育</b>  未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力』を育む授業づくり	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 「『思考力・判断力・表現力』を育む授業とはどんな授業なのか」、委員の授業研修を通して追究し、会員の授業力向上に資する。算数・数学科で思考力・判断力・表現力を具体的に表した。<ol style="list-style-type: none"><li>1 きまりを見いだす力</li><li>2 理由を筋道立てて説明する力</li><li>3 別の(よりよい)方法を考えようとする態度</li><li>4 統合的・発展的に考えようとする態度</li><li>5 数学的に表現された文章・式・グラフ等を読み取り評価する力</li></ol>の5つの資質・能力の育成に重点を置いた授業展開を迫る。</li><li>○ 研究の成果を、秋の一斉研修報告会、静教研夏季大会の実践発表を通して会員に広める。→今年度も一堂に会することはしないため、オンライン環境を有効活用していく。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・講師派遣はなし。小学校、中学校別々に研究推進委員のみで事前に授業実践、録画を行い、一斉研究報告会当日にオンデマンドで視聴できるようにし、視聴後オンラインで事後研修会を行う。</li></ul>
<b>理科教育</b>  理科の見方や考え方を働かせて、主体的に自然と関わりながら問題解決する授業	<ul style="list-style-type: none"><li>・令和4年度静教研夏季研究大会(観察・実験)分科会に向けての実践の積み重ね</li><li>・学生科学賞応募研究の取りまとめ、小笠地区審査会</li><li>・理科研究論文集購入希望調査、配布</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業公開</li></ul> 授業者：八木秀樹 教諭 (大浜中) <ul style="list-style-type: none"><li>・事後研修会</li></ul>

<p><b>音楽教育</b></p> <p>音でつながろう　ときめきの心</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校9年間を見通した音楽指導の系統性についての研究を推進する。(教科書研究)</li> <li>・「新しい生活様式」のもとでの音楽授業のあり方について研究し、授業実践を推進する。</li> <li>・1年間の研究成果を「小笠の教育」にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は実施しない。</li> </ul>
<p><b>美術教育</b></p> <p>アートの心で　響いて広がれ ～かかわる　つながる　造形教育～</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 人やもの、生活や社会、美術や美術文化との「かかわり」を深め、主体的に「つながる」ことで、造形的な見方・考え方(=アートの心)を育むことができる授業。</li> <li>2 今まで学んできたことと「つながり」、構造化・概念化して捉え、生活や社会の中で造形的な見方・考え方(=アートの心)を発揮していける造形教育。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究推進委員 10名+新採1名+新採2年目2名</li> </ul>
<p><b>保健体育教育</b></p> <p>主体的・対話的で深い学びを通して、豊かなスポーツライフを実現する基礎を培う体育・保健体育授業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の主旨をふまえ、研究テーマに沿った実践をまとめ、広める</li> <li>・県の5つの視点に着目するとともに、体育の授業における ICT の活用の仕方を工夫し、推進委員会で実践報告を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各研究委員の実践報告をもとに、成果や課題について話し合う。深めたことを「小笠の教育」にまとめ、研究報告とする。各研究委員は、各中学校区や市などで研究成果を積極的に広める。</li> </ul>
<p><b>技術・家庭科教育</b></p> <p>学びをつなげることを通して、実践的な態度を育てる授業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度の全国大会に向けた「エネルギー」に関する研究(技術分野)</li> <li>・新学習指導要領に沿った題材計画や授業展開の研究(家庭分野)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師を招聘し、専門的な知識や指導方法について学ぶ。</li> </ul>
<p><b>小学校家庭科教育</b></p> <p>学びをつなげることを通して、実践的な態度を育てる授業(静岡県技術・家庭科研究部テーマ)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 つけたい力を明確に押さえ、子どもが主体的に取り組むためにより効果的な学習活動を仕組む。</li> <li>2 各教材における評価のあり方を検討し、指導に生かす。</li> <li>3 年間を見通し、各題材の学びがつながるような題材構想を考える。</li> <li>4 上記3点を研究し、令和5年度の発表(内容A)に向けて準備を進める。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員が一斉に集まる報告会や授業公開という形ではなく、推進委員8名で「家庭生活と家族」の授業について相談し研修する時間とする。(講師については検討中。)</li> </ul>
<p><b>英語教育</b></p> <p>小・中9年間を通してたくましく英語を学ぶ生徒の育成を目指した授業づくり</p>	<p>研究テーマに沿ってこれまで推進委員が積み上げてきた実践を、推進委員のリードのもとに管内各中学校での実践に広げる。推進委員会では、小笠地区の英語授業で育てたい生徒の姿を確認しながら、各班で進めている実践について意見交換を行い、来年度の一斉研究報告会での発表につなげる。そして、この研究の成果については、令和5年度静教研夏季大会で発表する。また、本年度静教研夏季大会は小笠地区が担当するため、その準備や運営を行う。</p>	<p>令和5年度の静教研夏季大会の発表に向けて、小笠地区英語教育研究部が進めてきた一斉研究報告会の持ち方の経緯(中心授業公開→推進委員によるブース・セッション形式の発表会→一般英語教員によるブース・セッション形式の実践発表)をまとめていく。</p>
<p><b>生活科・総合的な学習</b></p> <p>気付き　かかわり　よりよく生きる</p>	<p>新学習指導要領を踏まえ、これまで生活科や総合的な学習の時間に培ってきた課題解決や探求的な学習を一層充実させ、「主体的・対話的で深い学び」に向かうような学びを目指していく。また、スタートカリキュラムに示される幼小の接続や小中の接続も重視し、「縦のつながり」で資質・能力の育成について考えていく。</p>	<p>2年 生活科 授業者：杉田凌雅 教諭(御前崎小) 講師：山口恭正 さん(元蒲原西小校長)</p>
<p><b>特別活動</b></p> <p>高めよう自治力！　生かそう児童生徒の主体性！ ～小学校から中学校へ　特活のバトンをつなごう！～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の主体性を引き出しながら、学校が活気づき、子どもたちが生き生きと活動する実践の推進。</li> <li>①児童生徒の主体性を生かす活動づくり</li> <li>②特別活動の視点から考える小中連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属研究委員対象で、研究委員による授業公開と事後研修会の実施。</li> </ul>
<p><b>生徒指導</b></p> <p>機能的で継続可能な生徒指導体制の確立 ～開発的・予防的生徒指導について～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある学校づくりの推進</li> <li>・月例報告の分析と考察(不登校傾向の児童の分析と考察)</li> </ul>	

<p><b>道徳教育</b></p> <p>考えを深め合うストーリーのある授業</p>	<p>①国・県・3市の方針を踏まえた本質的な研究を行う。          ②部員一人一人の授業力向上を図り、研究成果を発信する。          ③令和3年度全小道中部地区大会高学年分科会発表の準備を進める。</p>	<p>・掛川北中学校を会場に授業研究を行い、道徳教育研究部推進委員のみの参加を基本とした協議会を行う。</p>
<p><b>書写教育</b></p> <p>正しく整えて書くことを生活に生かそうとし、文字文化を大切に育てる子の育成</p>	<p>・席書コンクール、書き初め等の取り組みを軸とし、日々の書写指導や作品の評価を通して、自分の課題がもてるように指導するとともに、児童生徒の学習意欲を高める。</p>	<p>小笠地区席書コンクールの審査及び書写実技に関する研修</p>
<p><b>学校図書館</b></p> <p>知識をつなげる 学びを広げる心をはぐくむ 学校図書館          一本に出会い、本に関わり、本と生きる～</p>	<p>学校図書館や司書教諭の果たす役割が重視される今、司書教諭や図書館担当者としての力量を高め、本テーマに向けての活動を行う。          (ア) 授業公開と講師招聘により、実践的な指導力を高めるための一斉研究報告会を実施する。          (イ) 読書感想文や読書感想画コンクールへの参加を通して、読書意欲の高揚を図る。          (ウ) 読書センター・学習センター・情報センターとしての機能を十分発揮し、学びを支える学校図書館の充実を図る。</p>	<p>授業を通して実践紹介を行う。          公開授業と分科会、事後研修・講話、各種研修会の報告や先進校の事例を紹介する。          授業者：伊藤 陽香 教諭          (浜岡北小)</p>
<p><b>学校保健</b></p> <p>自分の体と主体的に向き合う子どもの育成          ～発達段階に応じた切れ目のない健康教育～</p>	<p>中学校区毎に決めた健康課題に沿った実践を行い、自分の身体と主体的に向き合う子どもの育成を目指す。また、他の中学校区の実践を知ることによりよい研修方法を学び、健康教育推進者としての資質向上に努める。</p>	<p>・中学校区の実践の発表を実施予定。</p>
<p><b>事務</b></p> <p>子どもの豊かな育ちを実現する学校事務</p>	<p>学校経営に積極的に参画するための力量形成を、実務能力(統括能力)向上を目指した研修及び実践により進める。</p>	<p>・磐田市立城山中学校 菅沼参事講話          ・研究推進委員実践発表</p>
<p><b>特別支援教育</b></p> <p>一人一人の良さや可能性を伸ばし、豊かに生きる力をはぐくむ特別支援教育</p>	<p>・特別支援教育の視点から、学校間・教師間の連携を密にし、組織の活性化を図る。          ・特別支援教育の推進者の世代交代を見据え、若手職員の資質向上に努める。          ・教員と保護者を対象にした進路学習会を通して、児童生徒の自立を見据えた学校教育、家庭教育の充実を図る。          ・GIGAスクール構想の実現を踏まえ、特別支援教育に関わるICT活用のあり方を研修する。</p>	<p>・令和3年度も令和2年度に続き、紙面での研究報告とする。          ・内容は「GIGAスクール構想実現を目指した特別支援教育でのICT活用のあり方」</p>
<p><b>情報教育</b></p> <p>1人1台PCを効果的に活用した情報活用能力の育成</p>	<p>1 1人1台PCを効果的に活用した情報活用能力の理解を深める。          2 1人1台PCを効果的に活用した情報活用能力を育む授業を研究する。          3 1人1台PCを効果的に活用した情報活用能力の育成について、各校に広げていく。</p>	<p>・公開授業は行わず、1人1台PCを効果的に活用した情報活用能力の育成について、各校の実践を持ち寄りまとめる。</p>
<p><b>学校給食</b></p> <p>学校給食からひろがりつながる食育</p>	<p>1 学校給食を含む食育を学校教育全体の中で体系的・計画的・組織的に推進する方法を研究する。          2 栄養教諭・学校栄養職員と学級担任・給食主任・家庭科主任・養護教諭との連携力を高める。          3 研修を通して栄養教諭・学校栄養職員の専門性を高める。</p>	<p>・授業を公開し、検討する。</p>

## 令和3年度 教育講演会について

日時： 令和3年8月3日（火）  
会場： 菊川文化会館アエル  
※Zoomによるオンライン講演会  
講師： 柳田 理科雄 氏  
（作家、空想科学研究所主任研究委員、  
明治大学理工学部兼任講師）  
演題： ～子どもの“疑問”にこたえよう！～  
日程： 接続テスト 13:50～14:05  
あいさつ・講師紹介 14:05～  
講演 14:10～15:40（90分間）  
お礼の言葉・閉会 15:40～

### — 柳田さんの主な研究内容 —

- ・様々な事象について科学的に考察する。
- ・これまでに漫画やアニメ、ゲーム、昔話など  
1000以上の検証をした。
- ・主な著書  
「空想科学読本」シリーズ  
「ジュニア空想科学読本」  
Wikipedia・空想科学研究所HPより

## 令和3年度静岡県教育研究会評議員教育研究会 報告 R3.6.9 県会館

※ 小笠から、協会会長：澤崎淳一（堀之内小）と協会副会長：鈴木大介（掛川第二小）が参加

### 1. 令和3年度静教研基本テーマ 『ときめき かかわり 未来へつなぐ』

3大事業を柱に、研修の充実・発展に努める。

- ① 研究大会・・・本年度 8/4（水）・5（木）  
※実施形態は部ごとの判断による。HPで確認する。
- ② 調査研究活動・・・統計グラフコンクール、国語・算数定着度調査  
各部調査研究（席書コンクール、英語弁論大会等）
- ③ 研究成果刊行・・・静教研だより（6・9・1月）、研究冊子（12月）、各部報



### 2. 「静教研三大事業」についての提案まとめ

主な変更点として、以下の2点についての説明があった。

- (1) 令和元年度より浜松市が静教研から退会しているが、浜松市教研は静教研と令和元～3年度の3年間「協定」を結んでおり、この間は静教研の全ての調査研究活動に児童・生徒の参加を予定している。令和4年度以降の浜松市の参加については、令和3年度に協議・決定する。
- (2) 静教研のホームページ（HP）が6月21日（月）から新しくなる。新しいHPでは、以下のことが可能になる。
  - 1 研究大会要項の掲載・・・従来の紙媒体による大会要項の全校配布は不要になる。
  - 2 ホームページからの研究大会の参加の申し込み・・・会員は、HPから大会の参加申し込みができる。（従来のようにそれぞれ担当地区の代表にFAXしなくてよい。）事前に「会員登録」が必要。
  - 3 研究大会の参加者名簿の作成・・・参加申し込みのデータを使って、参加者名簿が作成できる。名簿作成のミスがなくなり、人数の把握も瞬時にでき、準備がスムーズになる。
  - 4 研究大会の参加者アンケートの記述と集約・・・大会参加者のアンケート（感想）記述がHPでできる。
  - 5 研究大会の資料掲載・・・大会参加者はHPから必要な資料をダウンロードし、事前に内容を理解して大会に臨めるようになる。これまで行っていた資料印刷や当日配布も不要となる。オンデマンドによる大会開催（HPへの録画の掲載）が可能になる。
  - 6 部員への案内やお知らせの掲載、研究部役員間の連絡・・・研究部員への会合通知や会議資料などもHPで行えるようになる。

会員の皆様には、6月16日（水）～18日（金）に研究大会計画（一覧）と新しいHPによる参加申し込み方法の案内プリント（別紙）を配布し、新しいHPの利用促進を図る。